

第6章

運 営 体 制

1. 運営体制
2. 各主体の役割

第6章 運営体制

1. 運営体制

南アルプスユネスコエコパークの管理運営のための連携・推進体制を構築します。

(1) 南アルプスユネスコエコパーク全体を総括する組織

南アルプスユネスコエコパーク全体の管理運営を担う組織（仮称：南アルプスユネスコエコパーク連絡会議）の構築に、関係行政機関等と連携して取り組みます。

(2) 静岡県域の推進体制

南アルプスユネスコエコパークの静岡県域の自然環境の保全、利活用、地域活性化を推進するため、地域の団体や企業、行政等による連携組織（仮称：静岡県連絡協議会）を構築します。

(3) 行政内部の推進組織

ユネスコエコパークに関する事業の推進にあたり、関係各局の連携確保及び調整を行う「南アルプスユネスコエコパーク事業統括会議」を組織し、横断的かつ総合的な施策の推進を図ります。

(4) ユネスコエコパークの3つの機能を推進する体制づくり

ユネスコエコパークでは、①生物多様性の保全②学術的研究支援③経済と社会の発展、3つの機能による施策を総合的に推進していく必要があります。そのため、それぞれの機能を発揮できるよう、関連する団体、企業、行政、学識経験者等による連携体制をつくり、保全、利活用、地域活性化それぞれの取組を推進していきます。

(5) ユネスコエコパークの拠点施設の充実・連携

ユネスコエコパークの事業を推進するため、拠点施設の機能を充実・拡大するとともに、連携を図り総合的な運営体制を構築します。



図 31 南アルプスユネスコエコパーク管理運営体制 (案)

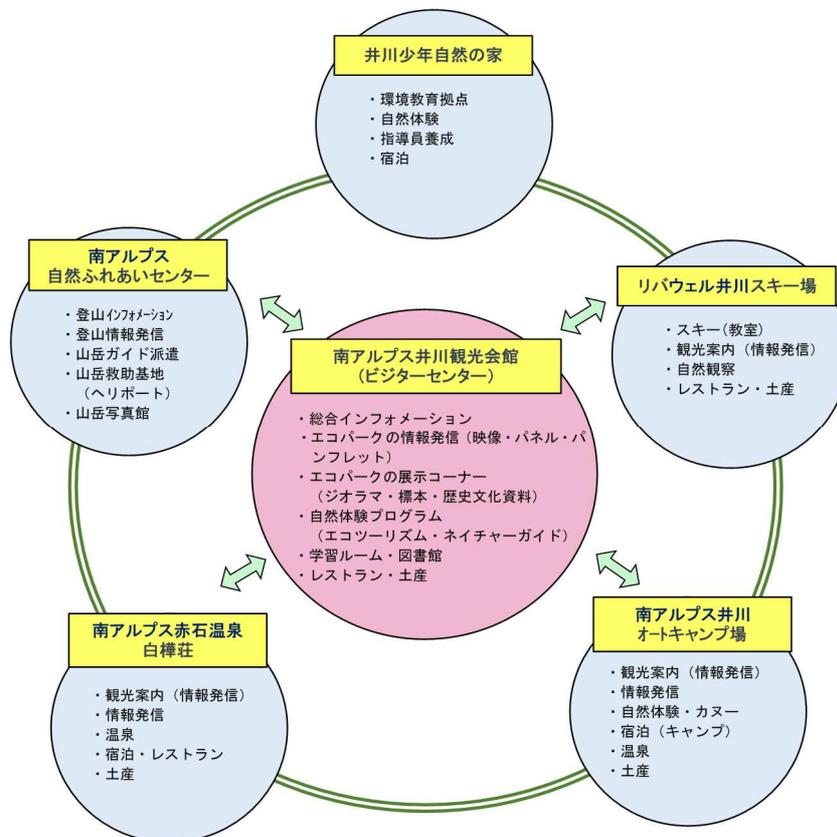


図 32 ユネスコエコパークの拠点施設

(6) 計画の実施と進捗管理

本計画に基づき具体的な事業を進める実施計画として、「(仮称)南アルプスユネスコエコパーク事業実施計画(静岡市域版)」を策定します。策定に当たっては、南アルプスユネスコエコパーク全体の計画、関係市町村、機関等の計画、「第3次静岡市総合計画」との整合を図ります。

また、本市行政内部については、「南アルプスユネスコエコパーク事業統括会議」において各局との連携・調整を図りながら、PDCAサイクルの考え方を基本とした進捗管理を行います。

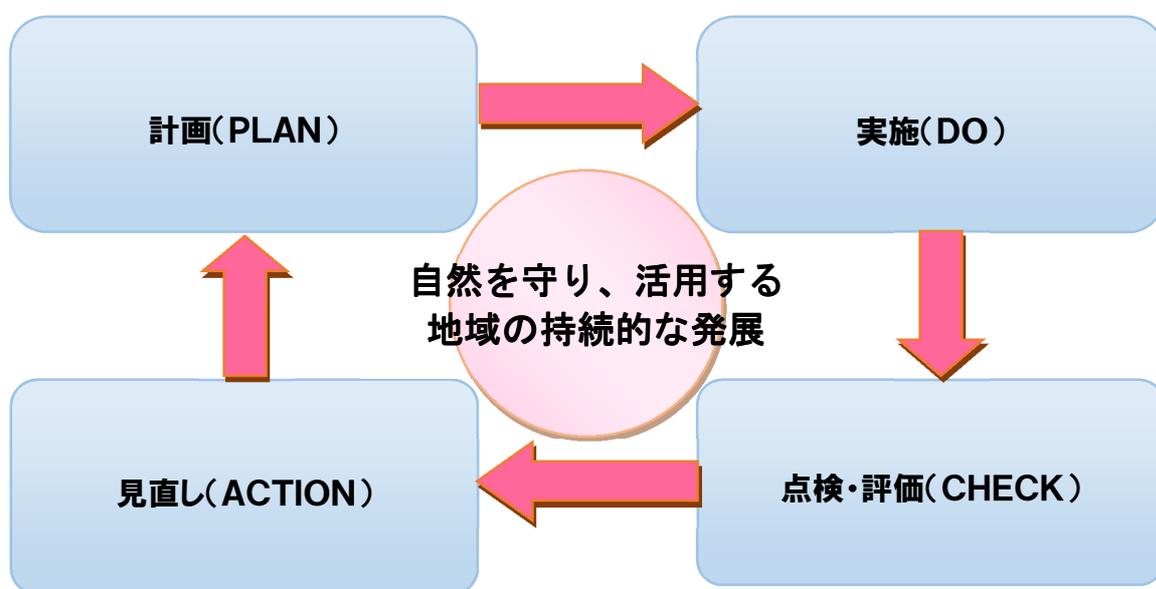


図 33 PDCAサイクル

2. 各主体の役割

南アルプスユネスコエコパークでは、それぞれの主体が連携を保ち、持続可能な管理運営をしていくことが必要です。そのために各主体が担う役割を示します。

○市の役割

市は、市民や企業、各種市民団体、教育研究機関と協働して、必要な施策を効果的に展開する役割を担います。そして、国や県、関連する市町村と一層の連携を図り、施策の円滑な実施を目指します。

○市民の役割

地域住民

ユネスコエコパーク登録地に居住する地域住民や、そこで働く市民は、ユネスコエコパークの構成要素の一つであるという自覚を持って、南アルプスの多様な自然環境や文化の保全と適正な管理運営に協力するとともに、構成要素の価値をさらに高め、その魅力を国内、海外に情報発信し、地域の持続的な発展の原動力となる役割を担います。

市民

ユネスコエコパーク登録地以外に居住する市民は、南アルプスユネスコエコパークに積極的に足を運び、ユネスコエコパークの世界的な価値を知り、国内、海外に情報発信するとともに、未来を担う子ども達にその価値を引き継ぐよう、持続的な管理運営と利活用の取組に協力する役割を担います。

企業、教育研究機関、市民団体

企業や教育研究機関、市民団体は、地域住民や市民と協働し、ユネスコエコパークの構成要素の価値をさらに高め、教育・学習や企業活動を通して、未来を担う子ども達に、世界の財産として引き継ぐとともに、新たな魅力の掘り起こしにも取り組みます。さらに、市の施策に積極的に参画して、地域活性化を支援する役割を担います。

用語解説

アルファベット

V字谷

川の流れて川底が深く侵食され、谷になっている地形。横断面がV字型を示す。

ア行

アースハンモック

周氷河地形の構造土の一種。凍結融解作用により礫や植生がハンモック状の模様を示す。

イゴヤ（居小屋）

住居から遠く離れた耕地を管理するために仮小屋を建て、そこに農耕の期間のみ居住する生活。主に焼畑農耕を営む山村に見られた。

大井川では、主に田代の人々が、奥山にイゴヤ（居小屋）と称される屋敷を構え、春から秋にかけて焼畑でヒエやアワを栽培し、冬のみ集落に戻ってくるという出作り生活を営んでいた。

田代集落からさらに大井川を上流に遡った菅山には、今もイゴヤが残されている。

菅山にはもともと4軒のイゴヤがあったといい（現在は3軒）、氏神である三宝社や先祖の墓なども祀られていて、かつての出作り生活の実態を明らかにすることができる貴重な史跡といえる。

お花畑

高山植物群落は生育期間が短いため、一斉に色鮮やかな花を一面に咲かせる。そのような様子を「お花畑」と呼ぶ。

カ行

階状土

周氷河地形の構造土の一種。構造土は、凍結融解作用により礫などが粒の大きさごとに集まって様々な幾何学模様を現した土壌で、植生が定着した前面と礫などが露出した上面が階段上になったものを階状土と言う。

カール

氷河の侵食によって、山頂直下の斜面が、すくい取ったように円形に削られた地形。圏谷とも言う。

河川争奪地形

河川争奪（河川の流域のある一部分を、別の河川が奪う（自らの流域に組み入れる）地理的現象）による地形。

岩塊斜面

森林限界上の山頂部や山腹斜面で、凍結融解作用の繰り返しによってほぼその場所で生産された大小の角礫が堆積している斜面。

岩石氷河

大きさが数mを超える巨大な岩石が見られる舌の形をした小高い丘の地形。永久凍土が岩石を運搬し、堆積したことで形成される。

亀甲状土

周氷河地形の構造土の一種。凍結融解作用により礫が多角形の模様を示す。礫質多角形土とも言う。

国際自然保護連合

(IUCN: International Union for Conservation of Nature and Natural Resources)

自然及び天然資源の保全に関わる国家、政府機関、国内及び国際的非政府機関の連合体として1948年に設立。全地球的な野生生物の保護、自然環境・天然資源の保全の分野で専門家による調査研究を行い、関係各方面への勧告・助言、開発途上地域に対する支援等を実施している。(外務省 HP 参照)

国連環境計画

(UNEP: United Nations Environment Programme)

地球環境問題に取り組む国連の中核機関として1972年に設立。UNEPは、環境分野を対象に国連活動・国際協力活動を行う。UNEPが取り扱う分野は、オゾン層保護、有害廃棄物、海洋環境保護、水質保全、化学物質管理や重金属への対応、土壌の劣化の阻止、生物多様性の保護等多岐にわたる。(外務省 HP 参照)

国連食糧農業機関

(FAO: The Food and Agriculture Organization of the United Nations)

世界各国国民の栄養水準及び生活水準の向上、食糧及び農産物の生産及び流通の改善、農村住民の生活条件の改善を通じた世界経済の発展及び人類の飢餓からの解放を目的に1945年に設立。世界の食料・農林水産物に関する調査分析及び情報の収集・伝達、開発途上国に対する技術助言、技術協力等を行う。(外務省 HP 参照)

サ行

砂岩泥岩互層

砂岩と泥岩が繰り返して重なる地層。付加体の砂岩泥岩互層の多くは、陸上付近の海底に堆積していた土砂が、地震動などをきっかけとして大陸斜面や深海底に流れ込む混濁流または乱泥流(タービダイト)が発生し、堆積する現象が繰り返した結果形成される。

次世代エネルギーパーク

「次世代エネルギーパークとは、再生可能エネルギーをはじめとした次世代のエネルギーに、実際に国民が見て触れる機会を増やすことを通じて、地球環境と調和

した将来のエネルギーの在り方に関する理解の増進を図る計画を、経済産業省が認定するもの。（出典：資源エネルギー庁HP）

本市では、平成26年10月30日に「静岡市次世代エネルギーパーク」として認定されている。

静岡市次世代エネルギーパークでは、日本平動物園を中心施設とするとともに、「世界文化遺産構成資産三保松原」周遊ゾーンと「南アルプスユネスコエコパーク」周遊ゾーンを設定し、観光・行楽と合わせて再生可能エネルギーを体感することができる。

褶曲構造

一連の地層がとぎれずに連続的に波曲している地質構造。白根帯ではチャート層、寸又川帯では砂岩泥岩互層に見られる。

周氷河地形

地中の水分が凍結や融解を繰り返すこと（凍結融解作用）によって形成される地形。山地では森林限界から雪線までを「周氷河地域」と呼び、緩やかな起伏が連続して見られる。

枕状溶岩

溶岩が水中に流出すると、表面が急速に冷やされるため、枕や俵を束ねたような形状を呈する。俵状溶岩とも言う。深海底の地殻を構成している。

雪食カール

堆積した雪の凍結融解作用（雪食作用）によって形成された浅いカール。氷河の侵食作用よりも弱いが、山頂緩斜面などの浅い凹地を作る。雪窪とも言う。

線状凹地

二重線（山地・丘陵などの稜線が二重に並行している）の間にある凹地。山地崩壊の初期過程で、山体の重力変形（褶曲や断層など）により発生していると考えられる。

ソリフラクションローブ

永久凍土や地面の凍結融解のはたらきによって形成される舌状の礫等の高まり。

夕行

チャート

堆積岩の一種。石英質の殻を持つプランクトンである放射虫などが陸から離れた深海の海底に堆積してできた岩石。主成分の二酸化ケイ素に、酸化鉄を多く含むものは赤色を呈する（赤色チャート）。これが赤石山地の名前の由来となっている。酸化鉄が少ないものは白色を呈する（白色チャート）

トア（岩塔）

結融解作用により、周囲の岩石が崩落し、その崩落から残ったもの。石灰岩の岩塔（光岩）が夕日に白く光って見えたことが、光岳の名前の由来となった。

ハ行

崩壊地

古くから同じ場所が崩れ続けている山

氷河遺存種

氷河時代の寒冷気候のもとで広く分布していたが、その後の温暖化によって周極地域や高山地帯にのみ分布を縮小した種。気候遺存種とも言う。

氷河地形

氷河が行う侵食、運搬、堆積などの作用により作られる地形。氷河の融解水によって生じた地形を含めることもある。氷河地形には、カール（圏谷）、U字谷、尖峰などがある。

分布限界種

地形、土壌、気候などの環境条件、他の生物との関係、地史的な経緯などによって分布が制限され、地理的な分布限界に生息・生育する種。

マ行

メラングジュ

地層がバラバラに壊されて入り混ざったような岩石。付加体に特徴的に発達し、南アルプスで見られるものの多くは、海側と陸側のプレート境界部でこすりあわされてできたと考えられる。

モレーン

氷河の流動によってもたらされた岩屑などの堆積物。氷堆石、堆石とも言う。

ラ行

緑色岩

変成岩の一種。深海の海洋底をつくっている玄武岩質の溶岩（枕状溶岩を含む）や貫入岩が、熱と海水の作用で変質したと考えられる。しばしば緑色を呈する。

ロードキル

車両にひかれて死ぬ轢死（れきし）、ぶつかって死ぬ衝突死などの、道路による影響で野生動物が死亡すること。

参考文献一覧

- ・南アルプス学・概論 平成 19 年 3 月 静岡市
- ・南アルプス学術総論 平成 22 年 3 月 南アルプス世界自然遺産登録推進協議会・南アルプス総合学術検討委員会
- ・「南アルプス お花畑と氷河地形」 増沢武弘 静岡新聞社
- ・南アルプスの自然 増沢武弘編著 静岡県
- ・大井川上流部のジオツアーガイド 2013 年 4 月 静岡大学防災総合センター
- ・南アルプス保全対策重点地域調査業務報告書 2013 年
- ・生物圏保存地域申請フォーム 平成 25 年 1 月
- ・静岡県史民俗調査報告書 第 14 集 田代・小河内の民俗 静岡県
- ・井川雑穀文化調査報告書 松田民俗研究所編集
- ・創立四十五周年 記念誌 静岡市井川山岳会
- ・大倉井川山林の伐出事業の変遷 株式会社東海フォレスト
- ・山に生きる人々の知恵 ―大井川最上流部の民俗文化―